

横尾議員 質問の前に訂正箇所があります。別紙添付の71ページですが、優先順位がSとなっていますが、Bの誤りです。訂正をお願いします。それでは、「観光政策に重点を置くべきでは」について提言し、町の見解をお伺いします。4点ほどあります。1点目として、私見ですが本町は長年、観光政策をおろそかにしてきたように思います。県内でも他に類を見ない、島々の景観が望める地域でありながら、島めぐり等の遊覧船の運航もなく、また、観光物産館等の施設もありません。これらのことが当たり前のように、指摘されることなく見過ごされてきています。観光協会を例にとると、以前の観光協会の実態は、主に打ち上げ花火の寄付金の集金が仕事であったように思います。それこそ打ち上げ花火等がメインの観光協会であったかの印象でした。しかし、現在の観光協会は、本来の業務に沿った運営が始められるようになり、そういったこともつい最近のことではありますが、一步も二歩も前進したことは歓迎すべきことであると思っています。一方で、ふるさと納税の返礼品等の品目・品種が少ないことが、本町が観光政策として取り組んでこなかった特産品や土産物に現れています。そして出羽島は重伝建保存地区選定地であり、今後は観光地としても整備をしていく必要がある地域であり、観光地にあるべき土産物店・食堂等の復興再生が望まれる地区であります。現在、牟岐バイパス工事中ですが、開通後には本町がストロー現象にならないためにも、重点総合政策として取り組むべきであると考えます。続いて、2点目ですが「牟岐町総合戦略、令和3年度に実施した施策の検証」よりお伺いします。別紙をご覧ください。71ページ、「新たな特産品の発掘」事業の取り組みについての事業改善点は「本町の特産品の更なる開発支援、PR活動等の支援が必要である」であり、101ページ「地域連携商品開発」事業の取り組みについての事業改善点は「町内事業者と町外事業者・大学等との連携事業の実施や、商品開発等を今後も推進していく」とありますが、具体的な取り組みや進め方について、どのようなお考えなのかお尋ねします。次に、3点目は各種イベントや文化祭等での販売品や作品等について、ふるさと納税の返礼品候補としての目線で、担当者が実際に各会場でチェックし、お話を伺うなどして、生産者及び製作者として勧誘するなどの取り組みをしてはどうでしょうか。人材の掘り起しにもつながるため、一考する価値はあると思います。4点目、最後になります。創業支援のための取り組みをしてはどうでしょうか。具体的には、特産品開発教室や物づくり講座等のプログラムとなりますが、せっかく「創業促進補助金制度」を創設しているので、チラシ等の配布で周知をするだけでなく、プログラムと連携した取り組みをすることで、創業を目指す事業者はもちろん、広く趣味を生かした、物づくりをされている一般消費者の創業予定者や予備軍として、各種教室や講座に登録をしていただくなどの取り組みです。将来は産

業振興の一助や創業につながれば理想だと考えます。以上、答弁をお願いします。

一山議長 枳富町長。

(枳富町長 登壇)

枳富町長 横尾議員の観光政策に重点を置くべきでは。について、それぞれのご質問にお答えします。①、町の見解としまして、牟岐町においては、観光施設が充実していないため、施設を訪れる観光客は少なく、それを増やしていくためには、ハード面・ソフト面の整備を含めた費用と年数が必要となります。そのうえで、牟岐町の特長として、山・川・海・島などの魅力ある資源を活用した体験型観光に取り組んでいます。また、特産品の開発は一朝一夕にはいかないことであり、特産品開発支援も必要と考えていますが、まずは、今ある特産品の良さをより一層PRしていく取り組みを各関係機関と連携しながら実施してまいりたいと考えています。牟岐町商工会におきましても、国の物づくり補助金の活用や、物づくり補助金申請に伴う専門家派遣などの事業者支援をお願いしたいと思います。次に、②、牟岐町総合戦略の具体的な取組や進め方は?につきましては、「牟岐の農業を守る会」においては、徳島文理大学と連携したもち麦やもち麦パスタなどを商品化して町外事業者が製造販売を実施しています。かいふ農協においては、徳島県の6次産業化の補助金を活用して、実生ゆずの果汁、ポンジュレゆう、母ちゃんマヨなどを商品化してまいりました。また、令和4年度におきましては、京都産業大学の学生と連携し、新たに開発するブレンド米の名称やパッケージデザインについて学生に取り組んでいただきました。また、モリンガの商品化についても取り組んでいただいています。また、牟岐町猟友会ジビエ部会が事業主体となり、令和3年度にジビエ処理加工施設を建設しました。牟岐町の観光の中心の1つとなるサーフィンなどのマリンスポーツの愛好家には健康志向の方が多く、ジビエの低脂肪で鉄分を多く含むなどの特徴に注目している方も多いと聞いています。新たにジビエを特産品として商品化に向けて取り組んでまいりたいと考えています。牟岐町が観光客を誘致するためには、牟岐の魅力発信を引き続き実施しながら、今ある特産品のPRや販路開拓につながる取り組みを強化し、特産品を点と捉えるのではなく、体験型観光と併せた面として取り組んでまいりたいと思います。また、③、文化祭出品作品やイベント等での販売品の返礼品目

に向けて勧誘等をしていくべきではについてですが、ふるさと納税の目的に、姫神祭りでの海上パレードや納涼花火、秋祭りの山車運行などを記載すれば、ふるさと納税に充当することは可能ですが、イベント参加に対する乗船券などを返礼品にしますと、イベントが中止となった場合にふるさと納税の返礼品に該当しなくなりますので、検討が必要となります。最後に④、創業支援のための取り組みをしてはどうか? についてですが、令和4年度より牟岐町創業促進補助金要綱を制定し、事業を実施してまいりました。9月15日現在、2件の申請がありました。今後は、商品開発費用が牟岐町創業促進補助金の対象となるように検討してまいりたいと考えています。以上です。よろしくお願ひします。

一山議長 横尾議員。

横尾議員 町長より答弁をいただきました。ありがとうございます。町長もご存じのように、議員生活が長い状態で、牟岐の詳細をよくご存じであると思いますが、本当、バイパスが開通した後、国も挙げていることがストロー現象化が恐ろしいわけでありまして、そのためにも、町民の観光地化資料もっとあげなければいけないということ、これは、今、教室を開いて担えるものでもない、地道に取り組み積み重ねていって、そういう観光地化の意思を持っていただいて、特産品開発とかいうことにつなげていく。例えば、出羽島でも重伝建がありましたように、重伝建グッズであるとか、姫神グッズであるとか、千年サンゴグッズであるとか、そういった要素の素材がありますので、そういったものの開発なんか全然なされていないというふうな現状があります。それと、町長もおっしゃいましたけど、各団体に協力していただいてということは、もちろん商工会としても大いに協力はする予定でいるのですが、いきなり町からのそういうふうなプログラム化であるとか、そういうふうな支援とか、簡単に言えばプログラムもこしらえていただいた図面に関して突き進んでいくというふうなことで、実行を伴いながら徐々にそういう観光地としての商品づくり、そういうふうに向けていくべきではないかと考えます。それも一長一短にあるわけではありませぬので、もっと担当課の方に努力をしていただいて、願ひするしかありませんが、よろしくお願ひします。以上で終わります。